

# 東北ILC事業推進センター ILC建設候補地での活動について



日本政府が国際リニアコライダー（ILC）の国内立地に関する具体的な検討を開始する前に、国内立地候補地である東北地方におけるILC立地に関する課題の概要を事前に検討する必要がある。東北ILC準備室では、東北マスタープランを策定し、北上サイトに特化した施設・設備設計や、ILCを通じた産業競争力強化策について検討を進めてきた。

## 世界の候補地としての東北の取り組み

東北地方の岩手県と宮城県にまたがる北上山地の南部は、花崗岩が連なる地形で、以下のプロセスを経て世界的な候補地に選ばれた。

### 日本人研究者によるILC候補地評価（2013年）

2013年8月、日本の研究者で構成される「ILC候補地評価会議」が、北上サイトが日本におけるILCの最有力候補地であるとの調査結果を発表した。

この評価結果は国際的にも支持され、以来、東北は国際的な研究コミュニティ（LCC/Linear Collider Collaboration）などと協力し、建設候補地としての計画を世界にアピールしてきた。



## 東北ILCプロジェクト開発センターの組織

- 設立 2020年8月6日
- 代表者 鈴木 厚人（岩手県立大学学長）
- 構成団体  
東北大学、岩手大学、岩手県立大学、宮城県、岩手県、仙台市、気仙沼市、登米市、栗原市、大崎市、盛岡市、大船渡市、花巻市 北上市、遠野市、一関市、陸前高田市、奥州市、西和賀町、金ヶ崎町、平泉町、住田町、岩手県国際リニアコライダー推進協議会

## 東北ILCプロジェクト開発センターの取り組み

### 課題別部会活動

東北ILCプロジェクト開発センターでは、研究者、有識者、自治体関係者、関連業界などで構成される分科会を設置し、ILC建設に伴い地域社会が取り組むべき課題を検討・議論している。

### 部会で検討するテーマ

- 1 建設候補地の地形・地質調査、トンネル等の施設配置検討、土木設計。
- 2 ILC加速器棟、計測器棟等の物流・組立拠点の検討。
3. 研究者やその家族を受け入れるための環境整備やまちづくりの検討。
- 4 ILC建設に対する地域住民の理解促進活動。
- 5 加速器関連産業の振興
- 6 自然環境・社会・経済への影響調査。
- 7 地域のカーボンニュートラルやグリーンILCの取り組み

## 東北ILCプロジェクト開発センターの設立

### 候補自治体等による積極的な建設準備

日本政府はILCの建設について決定を下していない。日本政府がILCを国家プロジェクトとして位置づけ、国際的な議論を進めていくことが望まれる。政府が具体的な検討を行う前から、建設候補地として、建設地固有の諸課題、ILC立地に伴う研究者やその家族の受け入れ環境の整備、ILCを契機とした加速器関連産業の振興などについて、地元が主体的に検討する必要があると考える。

### 国内外の研究コミュニティとの協力

2020年8月、ICFA（国際加速器委員会）の下にIDT（ILC国際開発チーム）が設置されることになった。このようにILC建設に向けた準備が進むことが予想されることから、IDT、KEK（高エネルギー加速器研究機構）、AAA（先端加速器科学研究推進協会）などの関係機関が連携して、ILC建設の土木設計をはじめ、ロジスティクスや環境影響評価などの関連課題を推進する。2020年8月には、ILC建設候補地周辺の自治体や大学等と「東北ILCプロジェクト推進センター」を設置し、具体的な検討を進めている。

## Organizational Chart of Tohoku ILC Project Development Center

